

平成 24 年 1 月 16 日

各 位

会 社 名 ケネディクス株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 川島 敦  
(コード番号:4321 東証一部)  
問い合わせ先 取締役経営企画担当 吉川 泰司  
電 話 番 号 (03)3519-2530

当社グループ平成 23 年度末時点の受託資産残高について

当社グループの受託資産は、平成 23 年 9 月末から 12 月末までの 3 ヶ月間において 140 億円の純増を達成し、平成 23 年末時点において残高 1 兆 1,113 億円、平成 22 年末の受託資産残高と比較して年間で 134 億円の純増となりましたのでお知らせ致します。

	増加額	減少額	純増減	受託資産残高
平成 22 年度末				1 兆 979 億円
平成 23 年度 第 1 四半期末	65 億円	309 億円	244 億円	1 兆 735 億円
平成 23 年度 第 2 四半期末	26 億円	242 億円	215 億円	1 兆 519 億円
平成 23 年度 第 3 四半期末	722 億円	268 億円	454 億円	1 兆 973 億円
平成 23 年度 第 4 四半期末	531 億円	390 億円	140 億円	1 兆 1,113 億円
平成 23 年度通期	1,345 億円	1,211 億円	134 億円	1 兆 1,113 億円

平成 23 年度は、東日本大震災や世界経済の不透明感による不動産市場の活動の停滞から、新規受託のための案件が減少する一方、当社がスポンサーを務める会社更生型案件の物件売却が進んだこと、また当社がアセットマネジメントを受託している複数の不動産ファンドが売却の時期を迎えたこと等により受託資産の売却は順調に進捗し、当社の受託資産の残高の成長は例年に比して低調となりました。

かかる市場環境においても、特に下半期においては、当社のネットワークを生かした新規投資家の開拓及び優良案件の発掘が結実したこと、またケネディクス不動産投資法人が順調に受託資産残高を成長させたこと等により、当社グループの新規受託資産は純増し、第 3 四半期においては所謂リーマン・ショック以降で最大規模となる 722 億円の新規受託を達成、また通年でも 134 億円の受託資産純増を達成することが出来ました。

当社グループは、今後も引き続き市場環境の変化に柔軟に対応し、受託資産残高の成長を着実に進めていく所存です。

以上

注：当社グループでは、以下の基準で受託資産残高の集計を行っております。

- ・ 当社グループがアセットマネジメント業務を受託している不動産物件が対象です。
- ・ 取得時の物件購入価格（税抜）で集計し、取得付随費用やバリュアード費用（物件価値を上昇させるための資本的支出）等のコストについては、本来は会計上の簿価を構成するものですが、受託資産残高には含まれていません。
- ・ 当社グループが一時的に自己勘定で取得し、アセットマネジメントを行っている物件が含まれています。また、当社の関係会社が資産運用を受託している J-REIT（ケネディクス不動産投資法人および日本ロジスティクスファンド投資法人）が保有する物件も含まれています。
- ・ 受託資産残高は、今後の受託資産の売却などにより減少する可能性があります。

(参考資料) 当社グループの受託資産残高の推移

